

御宿有志



— 愛媛・四国中央市 —

一
愛媛・四国中央市
一

美扇有るまし



発行：書道パフォーマンス甲子園実行委員会
題字：書道パフォーマンス甲子園アンバサダー 青柳美扇





山ありて 水清きところに 紙宿る

法皇山脈の豊かな自然と

銅山川の清らかな水が溢れるこの地で
江戸時代に始まつたとされる紙漉きは
農家の副業として広まりました。

大正時代には機械化が進み
製紙産業の基盤が築かれ

戦後の需要増加に応じて大きく飛躍します。
その技術は脈々と受け継がれ

四国中央市は日本一の紙のまち

そして日本一の書道用紙のまちとして
今も発展しています。

四国中央市に宿る紙づくりのキセキとともに
全国に誇る書道用紙のまちをご紹介します。



写真:書道パフォーマンス甲子園実行委員会



水の恵みに感謝する風習

紙づくりに欠かすことができない大切な水。この地では、水の恵みに感謝する文化風習が根付く。水波神社では水の神を祀り製紙業の関係者などが感謝を捧げ、毎年行われる疏水感謝祭では多くの人が銅山川疏水の恩恵を再確認するとともに、銅山川分水という偉業を果たした先人たちの遺徳を偲ぶ。



書道パフォーマンス甲子園

地元三島高校書道部が、「書道でまちを盛り上げたい」と始めた書道パフォーマンス。2008年に商店街の一角でわずか3校から始まつた書道パフォーマンス甲子園は、高校生が音楽にあわせた様々なパフォーマンスで書と演技の美しさを競う。現在では全国から100校を超える参加があり、全国の書道部の夢の舞台となっている。

| | |
|--------------|----|
| 書道用紙メーカーのご紹介 | 23 |
| 書家の視点 | 19 |
| そしてこれからも | 15 |
| 発展 | 11 |
| 目次 | 03 |
| 風土 | 07 |
| 伝承 | 07 |
| 風土 | 03 |
| 目次 | 03 |
| 発展 | 11 |
| そしてこれからも | 15 |
| 書家の視点 | 19 |
| 書道用紙メーカーのご紹介 | 23 |



古くから地域の山間に自生したミツマタは和紙の原料として利用され、地域の春の風物詩としても親しまれてきた。市発足20周年を機に、市の花となった。



法皇山脈の向こうに流れる銅山川からの分水は製紙業発展のための悲願であった。この大事業を成し遂げた先人たちは、涙を流して喜んだ。



市内最大の貯水量を誇る富郷ダムをはじめとする3つのダムは、製紙業に必要な水資源の確保に心血を注いた先人たちの努力の結晶。



富郷渓谷を流れる清らかな水は、石鎚山系冠山(標高1732m)を水源とし、市の自然と産業、両方を支えている。



四国中央市の手漉き和紙の歴史は江戸時代に始まり、幕末から明治にかけて農家の副業として普及。大正時代以降、機械抄きの生産が拡大する中で減少し、かつて700軒ほどあった手漉き和紙工房は現在3軒のみとなっている。





四国中央市でつくる和紙は「伊予和紙」と呼ばれ、現代にその技が受け継がれている。その美しさと耐久性から、書道用紙としてはもちろん、工芸品やインテリアとしても注目されている。







手漉きはじめまる紙づくりは、最新の技術によって幅5mの紙が時速約80kmのスピードで製造される。





江戸時代の元結(日本髪を結う時に髪の根元を束ねる紐)に始まった伊予水引は紙漉きとともに発展し、現在は日本を代表する水引産地の一つとなっている。



「書道でまちを盛り上げたい」と、書道パフォーマンスを始めた三島高校書道部は地域の誇り。

書家の視点

世界で活躍する書家、

「紙のまちと書道用紙」について

お話をうかがいました。

紙のまちの書道用紙

一 普段、どのようにして
書道用紙を選びますか？

紫舟 私が紙を選ぶ基準は、「長く残せる」こと。50～100年ではなく、600年遺すことを考えています。書は揮毫して何年か経つと「紙が悪さをする」ことがあります、保管状態の良



手前)紫舟さん、奥)青柳美扇さん

し悪し以外でも紙を漉く工程で使われた薬剤の影響がシミとして現れることがわかつてきました。そこで、実際に紙漉きの工房に足を運び、工程を確認し、経年に耐えうるもので、紙だけ見ても充分に美しい平滑なものを選んでいます。

美扇 私は墨色が綺麗に発色する紙が好みですが、何を書くかによって紙を選べます。

書道パフォーマンスであれば丈夫な鳥の子用紙を使うことが多いし、普段のお稽古では先生から勧めていたいた紙を5種類くらい使い分けています。

一 四国中央市の書道用紙に 触れていかがでしたか？

紫舟 今回、四国中央市の書道用紙を使ってみて、種類の多さに驚きました。どの紙も筆が気持ちよく走る上に、にじまないため、とても書きやすい。書を始めたばかりの方でも上手に書ける紙としても、どの企業もよく研究していますね、さすがです。このまちのもつ紙の伝統＝長年かけて開発された書道用紙だとわかります。このような紙だと、子どもも大人もお習字の上達が早く、お稽古を好きになり長く続けられ

ますので、最適だと思います。

美扇 手漉き和紙は四国中央市の誇れる特産品ですし、書道パフォーマンス用の紙は全国で販売されているので、私も存在は知っています。ただそれ以外の紙は初めて使わせてもらったものばかりです。試し書きをしてみて、子どもや初心者の方にすごくいいとか、この厚みや色味だったら作品展に出したときに映えるだろうとか、墨色が美しく見えて上級者も満足できる紙もあって、すごくバリエーション豊かだなって。ただ、子ども用・大人用とか、にじみが多い・少ないとか、分類の仕方や基準もメーカーによって違いがあるように感じました。

一 製紙メーカーと市に期待する」とお聞かせください。

紫舟 長い伝統がある書道用品の販売方法は、今の購入者にはフレンドリーとは言い難いかもしれません。筆はのりで固められているので質がわからず。紙は問屋によって名称を変えていることもあり。固形墨は箱入りで店員に尋ねても「値段が高いものが良い」と言われてしまう。そうだと私は思うのですが、基準が明確にない点や、産地や原材料表示がないことは、今後の課題かもしれません。四国中央市の紙＝伊予和紙では、メーカーを越えて、ひと目でわかるポジショニング表を作成し、にじむ印にじまない、平滑凸凹、黄色白色、うすい印あついなどが感覚的にも理解でき、外袋には原材料や製作者の表示があ



美扇さんによる試し書き

業証書にして、自分たちの育ったまちを深く理解し愛情をもつてもらうのがいいですね。

美扇

あと、文字では伝わりにくい内容も動画だと伝わりやすい。筆運びの速さや筆圧、墨の濃淡によるにじみ方の違いとか、動画で発信したらすごくわかりやすいと思うんです。お金をかけずにすぐできることなので、ぜひ、やってみてほしいです。

紫舟 「伊予和紙」は、愛媛県の和紙という意味ではなくて、この地域の和紙を指すと知りました。四国中央市の紙の世界的な発展のために、「伊予和紙のブランディング」に取り組む。フランスワインのラベルやルールづくりも参考になりますね。日本にいると紙は安く手に入るので、フランスや世界では高い品質に見合う評価を得られる可能性のある紙としてより多くの方々に発信できればいいですね。

紫舟 SISYU

書家/芸術家/大阪芸術大学教授

書に加え、文字を平面や伝統から解放した『三次元の書』、絵画と書が融合した『書画』etc.、伝統文化を新しい斬り口で再構築した唯一無二の現代アートで世界で活躍。パリ・ルーヴル美術館地下会場SNBA展金賞W受賞。ミラノ国際万博日本館金賞受賞。天皇皇后両陛下紫舟展御覧(現・上皇上皇后両陛下)。大河ドラマ「龍馬伝」。伊勢神宮「祝御遷宮」。

青柳美扇 AOYAGI Bisen

書家／アーティスト
書道パフォーマンス甲子園 アンバサダー

フランス、アメリカ、中国をはじめ、世界10か国以上で書道パフォーマンスを披露。サッカーワールドカップ決勝では、約6万人の観客を前にオープニングアクトを務める。国立競技場貴賓室の巨大屏風作品、「モンスター・ハンターライズ」の筆文字ロゴ、手塚治虫原作「どろろ」の題字・墨絵を担当。書の立体アートにも挑戦し、個展を開催。「伝統×革新」をテーマに、新しい書道の魅力を伝えている。



書道用紙メーカーの紹介

地域の伝統と情熱を胸に、このまちの書道文化を支える11社の書道用紙メーカーをご紹介します。

紙の展示・学術施設

紙のまち資料館

紙への敬意と技術が融合する四国中央市の紙づくり。その歴史を知りたい方は、「紙のまち資料館」を訪れてください。ここでは、古き良き製紙工場の軌跡や未来への挑戦が展示され、紙の可能性を感じられます。豊かな環境と人々の絆が紡ぐ、この地ならではの紙文化の変遷と技の美しさをぜひ体感してください。



〒799-0101 四国中央市川之江町4069-1
TEL:0896-28-6257 営:9:00~16:00
休:月曜日・祝日の翌日・12/29~1/3
※大型連休時は変更の場合あり

愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター

紙産業技術の試験研究・紙産業の技術支援・紙文化の普及・啓発を目的とした施設。紙に関する展示コーナーや、新製品の開発を行う共同研究室のほか、紙に関する技術書等の専門書を収蔵する図書室を備えています。



〒799-0113 四国中央市妻島町乙127
TEL:0896-58-2144

愛媛大学 紙産業イノベーションセンター

日本有数の紙産業研究施設である愛媛大学の紙産業イノベーションセンター。ここでは技術革新や新しい紙製品の開発、環境負荷の低減など様々な研究が行われています。地域企業との連携や国際交流を通じて四国中央市の製紙産業の発展を支えています。



〒799-0113 四国中央市妻島町乙127
TEL:0896-22-3230
FAX:0896-22-3231



星高製紙株式会社

昭和12年創業。四代目の星川幸久氏は、社会情勢を鑑みた抗菌和紙の開発や環境に対する施策など、時代・ニーズに応じた柔軟な挑戦を続けている。

〒799-0121
四国中央市上分町1184-1
TEL:0896-58-4380
FAX:0896-58-0157



十川製紙株式会社

最たる特徴は製造会社と小売店を兼任する点。自社製造から他社から仕入れた和紙まで、数百種に渡る商品を扱い多彩なニーズに応えている。

〒799-0431
四国中央市寒川町2356
TEL:0896-25-1731
FAX:0896-25-1726



藤原製紙所

明治末期頃の創業から手漉きまでの和紙製造を一貫する。職人の藤原俊二氏が四代目。工房には地域の子どもたちが社会見学に訪れることも。

〒799-0111
四国中央市金生町下分1462-2
TEL:0896-56-4127



多羅富來和紙

代表・大西満王氏が、地域の手漉き和紙製造の衰退に危機感を持ち2022年に創業。工房では流し漉きのほか紙の原料を窯で煮る「煮熟」の工程も行う。

〒799-0301
四国中央市新宮町馬立1517
TEL:090-8696-3711



宇田武夫製紙所

大正2年創業。昔ながらの手法で紙を漉く職人・宇田秀行氏が工房の四代目。現在は主に、神社仏閣で活用される奉書紙をはじめとした和紙を製造。

〒799-0111
四国中央市金生町下分2015
TEL:0896-56-3245



丸石製紙株式会社

昭和27年設立。伝統的な企業・工房に比べ歴史こそ浅いが、様々な新商品開発や時代を先読みした通販サイトの設立等、柔軟な時代適応力が大きな強み。

〒799-0121
四国中央市上分町457
TEL:0896-58-3016
FAX:0896-58-3750



有限会社丸あ製紙所

和紙が持つ風合いや色合いといった良さを残すため、機械抄きを取り入れつつ自然由来の原料を使用。企業から特注紙の製造依頼もあるという。

〒799-0113
四国中央市妻島町651-2
TEL:0896-58-2760
FAX:0896-58-1517



寺尾製紙株式会社

昭和13年創業。こだわっているのは紙の「剛度」と語る代表・寺尾剛氏。原料の独自配合で、硬さを残しつつ万人が扱いやすい紙のコシを追求している。

〒799-0111
四国中央市金生町下分285
TEL:0896-58-3700
FAX:0896-58-3702



合鹿製紙有限会社

昭和27年創業。現在は主に書道用紙と色京花紙の製造を手掛け、色京花紙はシェア80%を占める全国一の生産量を二十数名が在籍する一社で担っている。

〒799-0431
四国中央市寒川町2437
TEL:0896-25-2323
FAX:0896-25-2160



大高製紙株式会社

創業から百余年を迎える製紙工場。製造する書道用紙は主に学童向け、書道教室向けの商品。長年和紙を使い続けるユーザーの声も大切にしている。

〒799-0111
四国中央市金生町下分1390-2
TEL:0896-56-2425
FAX:0896-56-2400



石村製紙株式会社

明治43年の創業時から100年以上書道用紙一筋の製造を続ける。独自ルートによる原料仕入れのほか手漉きの技巧を機械化で再現することにこだわる。

〒799-0111
四国中央市金生町下分1390-2
TEL:0896-56-2425
FAX:0896-56-2400



The Best Paper City

感謝、そして未来へ

— 四国中央市発足20周年 —

書道パフォーマンス甲子園実行委員会